

2016年1月15日

2016年 イビデン株式会社 賀詞交換会

2016年1月15日午前11時30分より、イビデン株式会社(本社:岐阜県大垣市、代表取締役社長:竹中裕紀)は、お取引先様 約400名にご出席いただき、2016年の賀詞交換会を大垣フォーラムホテル(大垣市万石)において開催いたしました。

◆竹中社長挨拶(要約)

昨年の世界の政治・経済情勢は、地政学リスクの高まりに加えて、テロも頻発し、不安定な一年でした。幸い、国内においては、政治・経済共に比較的落ち着いて推移し、一昨年のトヨタ自動車様の燃料電池車MIRAIの発売に続き、三菱重工様のMRJの初飛行成功、またノーベル賞を日本人が二人受賞するなど、明るい話題もありました。しかしながら、今年も世界においては、政治・経済共に、不透明な状況が継続すると覚悟しております。

当社の事業は、電子部門、セラミック部門、国内関連会社と電力部門を合わせた「その他事業」の3つのセグメントで構成されています。それぞれのセグメントの今年の業績見通しにつきましては、電子部門は、スマートフォンやタブレット市場が頭打ちになってきていることに加え、今年もFO-WLPという当社CSPの代替商品が上市の見通しです。電子部門にとっては、大変厳しい年になると予測しております。

セラミック部門は、主力のDPF事業におきまして、フォルクスワーゲン問題に伴う影響は出ておりません。SCR事業においては、ノックス処理強化の流れを受け、引き合いが増加しています。また、アルミナシール材の受注は、大型車両向けが増えてきております。自動車向けのセラミック事業は、総じて今年も順調に推移すると予測しております。

「その他事業」セグメントは、国内関連会社事業においては、新製品開発による事業強化を実施しています。新製品の具体例として、イビデン建装における抗ウイルス化粧板、イビデン物産における機能性食材事業があります。電力部門においては、この春に東横山発電所の改修工事が完了予定です。これにより、3ヶ所全ての発電所が、FIT対応となり、安定的に収益に貢献する見通しです。「その他事業」も、今年から第3の事業の柱として、当社収益に大きく貢献するものと期待しています。

当社は現在、2017年度を最終とする、中期5か年計画を実施しています。この中期計画における目標は、一言で申し上げますと「人財育成」です。この活動を通じて、電子、セラミック、その他事業の3つの事業の柱で会社の業績を安定させ、次の100年に向かっていける体制を構築していきます。社員全員が「現地・現物・自掛り」で、現場で、自分の手で、創意・工夫して問題を解決していく。この活動を地道に進めることで、社員一人ひとりが達成感を味わいながら、個々のスキルを向上させていきます。今年も電子部門が大変厳しい環境にさらされますが、ぶれることなく、この活動を続け、何とか困難を乗り越えて、来年また笑顔で皆様にお目にかかりたいと思います。

最後に、当社の自掛り活動を実施するためには、取引先の皆様の協力が不可欠です。今年も引き続き、ご指導とご支援をお願いし、年頭のご挨拶とさせていただきます。

以上